



昭和61年8月
第14号

札幌東高等学校同窓会

ごあいさつ

北海道札幌東高等学校同窓会

幹事長 岩城弘侑



三万人あまりの卒業生を輩出していることは、われわれ同窓生のもつとも誇りとするところであります。

ところで、我が同窓会は他の公立高校の同窓会に比較して、執行

部の役員の年令が若くそのため、自由に物のいえる雰囲気にあるこ

とが大きな特色ではないかと思いまます。

今後も良き校風のもと、同窓会

の活動をますます活発化して、同窓生同志の交流の場を提供していくつもりですが、どうかいつでも自由に同窓会活動のありかたについて御意見・御指導をして下さるようお願い申し上げます。

最後に、同窓会の皆さまのますますの御発展をお祈り申し上げ、

残暑きびしきなか、同窓会の皆さまにはますます御健勝のこととお喜び申し上げます。

明治四十年、札幌区立女子職業学校として創立された母校は、その後、札幌区立実科高等学校、札幌市立高等女学校、札幌市立第一高等学校、そして現在の北海道立札幌東高等学校と校名は変わりましたが、校訓である「克己自彊」のとおり、折り目の正しい生活態度と優しさ、そして、若者らしい信念と実行力の校風が受け継がれ、

皆さんのお母校をおあづかりして



学校長 河 西 久 男

統・名門校であります。校名こそ札幌区立女子職業・札幌区立実科高女・札幌区立高女・札幌市立高女・札幌市立第一高・道立札幌東高と変りましたが、「克己自強」の校訓は一貫して流れ、同窓生の数は二万六千八百四十六名で道内はもちろん道外でも活躍されていて、「名門札幌東高」の名を高くしています。本校と私の因縁を考えてみると、昭和十八年に母校遠軽中学校の二代校長として赴任された和田数雄先生は当時札幌市女の教頭から来られました。この先生との出合が、田舎中学の私をして東京高師志願の心をかきたたせて下さいました。そして中学時代に数学を教えていただきました本間祐一先生は、本校の教頭から深川西高の校長となられ、その時三年間私は教頭として仕事をさせていただきました。深川西高では三浦喜多治校長（市立高女時代の先生）にもお仕えいたしました。

奈良県の天理高校を振出しに、札幌西・広尾・深川西を教諭教頭として、又浦河・網走南ヶ丘・帯広柏葉・室蘭栄・旭川東は学校長として勤務しましたことは、中等教員養成機関の東京高等師範学校出身者としては、身に余る光榮であり、教師としての人生は充実そのものであり、幸せを満喫しております。本校は来年に開校八十年を迎える伝

又十九代校長の仲川翠先生は私の高師時代の野球部の先輩もあり、奇しくも室蘭栄、本校は先生の後任に当るという因縁があり、市立高女全盛期の伊坂貞維校長先生は、青年教師時代大変お世話になりました。今日の私を育てて下さいました諸先生が皆本校に職を持じていたことを考えると、恩師を報いる道は唯々、東高の将来のため、

今校長として何をなさねばならないかを考えることが師の恩に報いる道だと思います。

戦前は「良妻賢母」をモットーに、戦後は「新しい民主的人間」をと、教育の狙いは変りましたが、「礼儀正しい人」「清潔感溢れる人」「社会奉仕に労を惜まない人」等の躰教育は、全道的にもその名が高く、東高を唯一つの母校にしている生徒の皆さんに未来は大いなる期待をよせております。

北海道のこれから八十年は、校章が示す通り「北の高校の王座」を目指し、北海道の二百年の建設に貢献し得る人材の養成こそが、本校教育に課せられた問題であろうと思ひます。それには「克己自強」の校訓を具体的な生活の中に如何に具現するかが先決であります。生徒は東高三年間の生活で、基本的生活習慣をしっかりと身につけること、

甘い判断を除去し、己に怠惰を許さない、厳しくそしてシャープな感性を持つていただきたい。先生方は、本校に職を捧じていることに「誇りと自信」を持つて一日、一日、一時間、一時間の授業とクラブ活動指導等に全力をもって当たり、教育をライフ・ワークとする教師生活の最大の想い出をつくり出していただきたい。

教育は「教えよう」という情熱」と「教わろうとする意欲」の相乗作用である。先生である人間と生徒である人間交流こそが「愛」でなければなりません。十年後には二十八才となり三十年後に四十八才になる生徒に対し、その魂に残る先生であつて欲しいと思います。

意の程を述べさせていただきました。ありがとうございました。



東高教師としての想い出

神 桀之助



ワオヌブリの登山などは忘れないものです。特に温泉で突然大きな青大将に出くわし、びっくりして飛び出したことなど昨日の事のようです。

私は柔道に深い関係があることから、なんと言つても最高の思い出は、昭和三十五年、第九回全国高体連柔道大会

が中島スポーツセンターで、東高を当番校として開催されたことです。私としては、東高柔道部の大会参加を切望していましたが、部員達の真剣な努力が実

して、全道大会で出場権を獲得し、本大会の第一日目のリーグ戦では、伊香高（滋賀）、小松高（石川）を破り、二日目の優勝トーナメントで強敵竜ヶ崎高（茨城）に対し堂々と戦うことが出来たのは、大きな感激でした。

私は一期卒業生の東高での在学期間は、同窓生中もつとも短く僅かに十ヶ月に過ぎません。これは当時のアメリカ占領軍の命令によって、突如男女共学が実施されたためです。今、当

時を振り返ってみると、混乱の十一か月がまさに矢のごとく過ぎ去ったという印象が残っております。そんなわけで、東高の校章は、美術担当の伊藤正先生のデザインで出来上がったものの、校歌は出来上がる前に一期生は卒業しま

した。このたび東高同窓会の依頼で、私の在任中の思い出を簡単に書くことになりましたが、十五年の長い間生徒部長として毎日のように生徒諸君と顔を合せていたので、学校を去つて二十四年たつた今も沢山の思い出が生々しく残っています。その中でも特に印象の強いのは、全校あげての学校祭で、演劇、合唱、スクエア・ダンス、ファイア・ストームなど、生き生きと一心不乱に取組んでいた生徒達の若々しい明るい面影です。

また、学友会活動の研修に函館、旭川などへ出かけたり、夏休みに錢函海岸で合宿したり、中でも六期の総務と同行したニセコアンヌプリの眺望、いています。

同窓会と私

相談役 五十嵐 恒夫



に東高同窓会を作りました。やがて種

々な事情から、旧市立高女の同窓会と合併し、現在の同窓会になつたわけです。合併当時は、ギクシャクすることも多々あつて、一期生の私が両者の橋渡しの役割を果すべく、芦野前会長、松尾現会長の下で副会長を務めさせて貰いましたが、七年前に転勤のため辞任いたしました。札幌に戻つた四年前

の総会で、相談役に推挙いただいた次第です。相談役としての抱負を述べよとのことです。私には任務が明確ではありません。おそらく会長以下の役員会で処理のできないような難問題がおきた時に、求めに応じて相談にのることなのでしょうが、そのような難問題がおきないことを同窓会のためにも、また私のためにも願つております。歴史の長い同窓会ほど会員の年齢幅が大きくなるわけで、それだけ物事に対する考え方たも、行動も幅広いものになるというように、メリットにしていくたいものです。

同窓会と母校の発展を願つてやみま

た。八月は、同窓会の年間行事の中で最大のイベントである総会の持たれる月である。役員はじめ、当番期の方々、大変ご苦労様です。

私は一期卒業生の東高での在学期間は、同窓生中もつとも短く僅かに十ヶ月に過ぎません。これは当時のアメリカ占領軍の命令によって、突如男女共学が実施されたためです。今、当

時を振り返ってみると、混乱の十一か月がまさに矢のごとく過ぎ去ったという印象が残っております。そんなわけで、東高の校章は、美術担当の伊藤正先生のデザインで出来上がったものの、校歌は出来上がる前に一期生は卒業しま

した。また、大会の開催にあたって、先生方や関係者の絶大な協力によつて大会は順調に運び、講道館長はじめ大先輩

の方がたから最大限の賛辞を頂いて大会を終ることが出来ました。これは私にとって、なにものにも替えがたい体

校が出来たという認識で、卒業と同時に

大正時代の女子のテニス

市立高女2期(相談役) 石田アイ

市立高女2期生大正十四年補習科卒業の明治末期生れの女学生です。骨っぽく粘り強く且つ责任感の強い人間共でしたから校訓の質実剛健、自張己まざるべしの精神には何の抵抗もなく素直に受け止めた時代でした。在籍数八〇〇名先生五十数名、服装は木綿の元禄袖に袴、白タビ、袴には下駄の歯の形を袴のすそ全体に白いテープで縫い付けた。冬はマントに首巻を巻きつけ登校した。朝礼の前に十分間の静坐(運動場の床に坐して)を全校生徒行う。卒業迄毎朝行われた。休み時間に上級生が中庭のテニスコートで楽しそうにテニスをしているのを見て「コレダ」と心に決めその年の五月に入部させて貰い一年生としてクラス代表に選ばれた。その頃は体育の先生が放課後指導してくれたものの二人共が後衛で平行線を打っていた。大正十三年市立高女に昇格し、古い先生方が次々に辞められたその年にテニスの上手な森田、大野両先生が入って来られてから本格的なテニスを学んだ。前後衛の基本練習から始まつた。勿論和服に袴を付けてコート一パイ走り廻った。学校の内容も一新し特に体育が盛んになり、

61・7・9記

八雲高等学校 塩川信

信



中でもテニス部は活気に満ちていた。毎日特訓が続き皆が短期間に上達し対外試合も始つた。大正十三年七月全道大会が小樽花園コートで開かれ札幌から北海高女と市立高女、小樽からは市立高女と実科高女の四校であつた。小樽軍の見事なプレーに札幌勢惨敗を喫し、翌年第一回全道女子大会が北大中央コートで行われ一般女子と女子学生混り合つて個人戦七〇組、やはり小樽勢の浅井、森脇組の優勝、二位札幌市立滝沢、大川組、三位松崎(旧私)沢村組であつた。その翌年札幌市立の滝沢、大川組二連勝で汚名をばん回してくれた。昭和初期に市立高女(現北高)も参加する様になり昭和十六年迄武田、荒木組全道優勝、神宮大会の最後の大會に出場し準々決勝で敗れた。大正末期から昭和初期私はラケットを持つて66年、お産と盲腸で入院した以外休む事なく続いている。お蔭で身体も元気なので続く限りテニスをやります。テニスを知つていて良かつたなあと感謝しています。

東京支部だより

東高12期(日本航空) 上野武士



れに引きつづき懇親パーティーが行われました。

各テーブルには幹事期の人々が2人、3人づつホスト役となりパーティーの盛りあがりに務めました。アトラクションが進むほどに、会場は熱気でムンムンと言った感じになり、皆様たいへん興に乗っていたようです。ご出席の

皆様の中には80才をこえる高女の先輩、若い方は2年前東高卒の20才、その差60年余と我が母校の年輪を感じさせられました。

第八回東京支部総会・パーティーは、昨年11月23日に銀座東急ホテルにて開催されました。

当日は朝から秋雨が降り、幹事期の一人としては出足がにぶつたり、NO SHOWの心配をしましたが、まったくの徒労でした。総会の始まる頃には会場が手狭にさえ感じられるほどでした。札幌から恩師の先生方、本部の皆様方のご出席をいただき、たいへん盛会がありました。

総会では審議も全てスムーズに行なわれ、満場一致で原案が承認され、こ

同窓会ゴルフ大会(61・7・15)

副幹事長(8期) 大黒正芳

同窓会恒例のゴルフコンペが、タカラ滝野コースで行われ、雨続きで当日もどつかと心配されましたが、午後のスタートから絶好の天候に恵まれ二十二名の参加で昨年より人数こそ少かつたのですが、楽しく盛大に開催されました。

本年は学校側から河西校長、青木先

生、柳原先生、赤塚前校長と四名の参加があり、一段とにぎやかに盛り上りました。同窓会ならではの素晴らしいコンペとなり、各人は自己の好成績をめざしてファイトあふれるプレーで無事終了しました。

会員でゴルフ愛好家は次回ぜひ全員参加を幹事として心から希望致します。



△個人賞△
優勝 杉中耕一(東8) 76
準優勝 陣内幸則(東9) 92
一位 青田峻亮(東9) 85
二位 乙丸修弥(東9) 94
三位 得能勝(東13) 87
四位 平沢 寛(東2) 90
五位 玉置好照(東15) 73
6位 16 14 12 21 12 73
7位 76 76 75 73 73
△ベストグロス賞△
(ネット68打切りハンデ上位の為)

優勝 東高九期(二八六ネット) 準優勝 東高八期(三〇五ネット)
△団体賞△

三段階卒業の同期生

札幌市立第一高等学校第二回生

常任幹事 横田佐和子



昭和十九年四月、札幌市立高女入学生も終戦後の六三三制施行により高女四年修了、高女五年卒業、高校三年卒業と三段階で卒業した同期生で、その総称として“高女26期”という事で隔年同期会を行っております。市立高女から東高へのつなぎの二年間だけ校名が違つてゐる事が社会的にわかつてもらえてゐるのかわかりませんが、教育制度の流れの中で仕方のない事なのかかもしれません。同期会名簿もこの一年間で不明者一二〇名の所在がわかり、年令的に居住地が得られたためと思つています。

五月二十四日、恩師七名と五十三名の同期生がススキノで一夜を語りあい青春の思い出にひたり、五十五才と思えない若さあふれる美人(?)のいたのしい集いであり、二年後の再会を誓つた一ときでありました。

61年三期会

長井利峯

今日は楽しい三期会の日だ。朝起き

て歯をみがいて、お母さんに朝御飯くださいといふと、朝に晩御飯食べる人はいませんといわれた。仲良しの畠君が迎えに来た。畠君はいつも早く来る

のでハタ迷惑だとみんなにいうとみんなは横を向いた僕は下を向いた。夕方には定山渓に集まらなくてはならない

のに、まずゴルフをしなくてはならない。木村君がとても上手に池に入れた

ので、拍手をしたらニラマレタ。僕は木村君とニギッテいたのだ。

ビューホテルには七十も人の人が集つた。三期のみんながとても大好きになつた。三期のみんながとても大好きになつた。三期のみんながとても大好きになつた。

前田先生が定年退職され、その第二の人生を祝うというか何かワイワイしようボ先生は恩給の足りない分を教え子からと、朝までマージャンでガンバッテそして朝には恩給が減つたそうです。

うというわけで、奥さんも来て頂いて、昔はなかつたよなんていいながらケーキカットしたり、お二人にいっぱいプレゼントしたので、帰りはトラックい

る程だと思つた。前の前の会で定年退職されたトンボ先生が友人代表として、短くてとても面白い挨拶をして下さつたので、すごく楽しくなつた。トンボ

先生の時前田さんは大変素晴らしいナガイお話ををして下さつたのだった。遠

くの友達久し振りの人が一人一人マイクをもつたのだけど、拓銀の五十嵐君がマイドドウモといったので、ますま

す彼が好きになつてしまつた。いつもでも飲んでて終らないわけだけど、ト

ンボ先生は恩給の足りない分を教え子

からと、朝までマージャンでガンバッテそして朝には恩給が減つたそうです。



昭和60年度

東高同窓会 会務報告

昭和60年度の主な会務を報告致します。

一、昭和60年度総会および懇親会

60年度総会は八月二十三日、七百名を超える会員・恩師の参加を得て、京王プラザホテルに於いて開催、59年度会務報告及び決算並びに監査の諸報告が承認され、次いで60年度事業計画案、予算案が上提されましたが、いずれも原案通り可決されました。

二、常任幹事会および幹事会

60年度の常任幹事会は一月十七日と六月十七日に開催され、60年度総会に於いて議決された案件の処理や、幹事会総会に提出する議案等について協議しました。幹事会は七月三日に開催され、60年度の会務の施行状況と決算、61年度の事業計画案、予算案を審議・議決しました。

三、同窓会の入会式

第36回卒業生の同窓会入会式は三月八日、校長・関係教員の列席を得て執り行われました。慣例通り新入会員歓迎の挨拶、新幹事への委嘱状の授与、同窓会役員の紹介、記念品の贈呈、最

後に新入会員代表の挨拶で閉会しました。

四、支部・同期会・同好会への助成等

函館支部への助成のほか、同期会への助成（一回目三万円、二回目以降一万円）に努め、会員相互の親睦を図りました。

なお、東京支部については、支部独自で収支決算をすることになりましたので、助成金としてではなく、お祝い金の名目で支払いました。

五、母校関係諸事業

学校祭開催にあたり、母校の理解あるご協力で、慣例通り一教室を拝借して同窓会のPRを致しました。

六、その他

年一回発行の同窓会々報の誌面の充実に努め、年会費納入者への配布を通して、同窓会活動への会員の理解を得られるように努めました。
なお、同窓会名簿は二二三年後の発刊をめざして準備中です。

昭和61年度

事業計画

同窓会事務局から

昭和61年度の事業はほぼ60年度の事業内容を踏襲し、より一層会員相互の親睦を図り、母校の発展にかかる事業の推進に努める予定です。

なお、昭和62年が創立80周年の記念の年になり、すでに創立80周年記念事業協賛会も発足され、同窓会としても記念式典・記念誌の発刊などにおいて協力する体制をととのえていこうと考えております。

一、総会・幹事会・常任幹事会及び同窓会入会式の適正な運営

二、支部・同期会・同好会活動に対する効果的な助成

三、母校の学校祭や体育・文化活動に対する助成

四、母校の創立80周年事業に対する協賛

五、同窓会名簿の作成の調査・準備

◎同好会に参加を
ゴルフ、麻雀、テニス、ほか同好の会員による懇親の集まりにふるつて参加しませんか。今年はゴルフの同好会が開かれました。ほか企画やご希望をお寄せください。お問合せは、総務担当3期山中 5021迄。

◎会報の送付を希望される方や、同好会、その他のご意見などご遠慮なく、事務局までお寄せください。

札幌東高同窓会事務局
011(831)6332 皆田・藤原・安室先生
003 札幌市白石区菊水3丁目
(札幌東高校内)



◎同窓会に助成金

より多くの呼びかけで、親睦の和をさらにひろげる同期会への助成金制度です。どしどしご利用ください。はじめての同期会開催には：三万円・次回以降の同期会開催には：一万円

▽申込みはハガキで事務局へ。

期名・代表者名（フリガナつき）と電話番号・振込銀行と口座番号、開催日時と会場を記入の上お申込ください。銀行振込制です。

◎住所などの変更はハガキで

住所・電話・勤務先などを変更された会員は、事務局へハガキでお知らせください。

◎年会費について

年会費（五百円）は、同窓会運営上の大切な財源として運用され、母校のスポーツ・文化活動や学校祭などの助成にも活用されています。会員各位の特段のご協力をお願ひいたします。

☆送金振込先

郵便振替口座 小樽〇一一〇〇八〇
北海道札幌東高校同窓会

☎ 831-6332

昭和60年度決算書並びに昭和61年度予算案

昭和60年度決算書

| | |
|---------------------------------|---|
| (昭和60年7月1日から) (昭和61年6月30日まで) | 前年度繰越額 709,308円 収入の部 1,986,118円 支出の部 1,550,386円 次年度繰越額 1,145,040円 特別会計へ繰入金300,000円 |
|---------------------------------|---|

(収入の部)

| 科 目 | 予 算 額 | 決 算 額 | 摘 要 |
|--------|-----------|-----------|-------------|
| 前年度繰越金 | 709,308 | 709,308 | |
| 新入会員会費 | 675,000 | 684,000 | 456名×1,500円 |
| 年会費 | 500,000 | 470,500 | 941名×500円 |
| 雑 収 入 | 215,692 | 831,618 | 預金利息他 |
| 計 | 2,100,000 | 2,695,426 | |

(支出の部)

| 科 目 | 予 算 額 | 決 算 額 | 摘 要 |
|---------|-----------|-----------|--------------|
| 事務手当 | 200,000 | 185,000 | 事務手当及び交通費 |
| 事務用品費 | 50,000 | 4,880 | 用紙その他 |
| 印刷費 | 40,000 | 36,000 | |
| 通信費 | 100,000 | 31,290 | 郵便料他 |
| 慶弔費 | 100,000 | 59,150 | 餞別他 |
| 会議費 | 350,000 | 215,366 | 幹事会等会場費 |
| 総会関係費 | 200,000 | 200,000 | 総会準備金 |
| 会報発行費 | 150,000 | 120,000 | 会報発行(2,000部) |
| 学校祭関係費 | 150,000 | 120,000 | 学校祭参加 |
| 同期会等助成費 | 250,000 | 140,000 | 支部及び同期会助成 |
| 新会員関係費 | 240,000 | 223,200 | 記念品贈呈 |
| 体育文化助成金 | 150,000 | 150,000 | 在校生助成 |
| 特別会計積立金 | 0 | 0 | |
| 雑 費 | 30,000 | 21,700 | |
| 予 備 費 | 90,000 | 43,800 | 校名旗他 |
| 計 | 2,100,000 | 1,550,386 | |

昭和61年度予算案

| | |
|---------------------------------|---|
| (昭和61年7月1日から) (昭和62年6月30日まで) | 前年度繰越額 845,040円 収入の部 1,454,960円 支出の部 2,300,000円 差引残高 0円 |
|---------------------------------|---|

(収入の部)

| 科 目 | 予 算 額 | 摘 要 |
|--------|-----------|-------------|
| 前年度繰越金 | 845,040 | |
| 新入会員会費 | 675,000 | 450名×1,500円 |
| 年会費 | 550,000 | 1,100名×500円 |
| 雑 収 入 | 229,960 | 預金利息他 |
| 計 | 2,300,000 | |

(支出の部)

| 科 目 | 予 算 額 | 摘 要 |
|---------|-----------|-----------|
| 事務手当 | 215,000 | 事務手当及び交通費 |
| 事務用品費 | 30,000 | 用紙その他 |
| 印刷費 | 80,000 | |
| 通信費 | 50,000 | 郵便料他 |
| 慶弔費 | 100,000 | 餞別他 |
| 会議費 | 300,000 | 幹事会等会場費 |
| 総会関係費 | 200,000 | 総会準備金 |
| 会報発行費 | 130,000 | 会報発行 |
| 学校祭関係費 | 140,000 | 学校祭参加 |
| 同期会等助成費 | 250,000 | 支部及び同期会助成 |
| 新会員関係費 | 240,000 | 記念品贈呈 |
| 体育文化助成金 | 150,000 | 在校生助成 |
| 特別会計積立金 | 300,000 | |
| 雑 費 | 30,000 | |
| 予 備 費 | 85,000 | |
| 計 | 2,300,000 | |

※残高(845,040円)は北海道相互銀行菊水支店 普通預金(No250100)に全額預入

■特別会計積立金<信託預入>

〔収入の部〕

| | |
|--------|------------|
| 前年度繰越額 | 3,707,478円 |
| 繰入金 | 300,000円 |
| 収益配当金 | 193,743円 |
| 合 計 | 4,201,221円 |

〔支出の部〕

| | |
|-------------------|---------------------------------|
| 0円 | ※残高内訳 |
| 次年度繰越額 4,201,221円 | 安田信託銀行札幌支店 貸付信託(No.09101634) |
| | 3,000,000円 |
| | 金錢信託(No.35026790) |
| | 1,201,221円 |

監査報告書

昭和60年度の会計運営につき、収支計算書、予算実績対比表、付属帳簿及び証憑書類につき監査を行なった。
 監査の結果、会計処理の原則及び手続きは、一般に公平妥当と認められる会計の基準に準拠しているものと認められた。
 よって、当監査役は上記決算書は昭和61年6月30日現在の財務状態を適正に表示しているものと認める。

昭和61年7月3日

監査役 秦 泰子

監査役 藤枝靖規

札幌東高等学校同窓会会則

第1章 総 則

第1条 本会は札幌東高等学校同窓会と称し連絡運営のため事務局を母校におく。
(白石区菊水9条3丁目 電話811-1919)

第2条 本会は会員の親睦と母校の発展に寄与することをもってその目的とする。

第3条 本会会員は正会員並びに名誉会員よりなり、正会員は札幌東高等学校卒業生及び準ずるものとし、
名誉会員は札幌東高等学校旧並びに現職員とする。

第2章 役員及び組織

第4条 本会に名誉役員をおく。

1. 名誉会長 1名 現母校校長
1. 名誉顧問 若干名 旧母校校長全員

第5条 本会に次の役員をおく。

1. 顧問 若干名 幹事会において決定のうえ総会の承認を得た者
1. 相談役 若干名 幹事会において決定のうえ総会の承認を得た者
1. 会長 1名 正会員中より幹事会で選出し総会の承認を得た者
1. 副会長 5名 正会員中より幹事会で選出し総会の承認を得た者
1. 幹事長 1名 正会員中より幹事会で選出し総会の承認を得た者
1. 副幹事長 7名 正会員中より幹事会で選出し総会の承認を得た者
1. 常任幹事 若干名 正会員より幹事会で選出した者
1. 幹事 卒業時の各クラスより男女1名ずつ2名を選出する。但し卒業後7年以降は幹事の互選により各期4名以上を選出する。

第6条 1. 監査役 2名 正会員より総会で選出する。但し前記役員とは兼任できない。
役員の任期は次のとおりとする。

1. 会長・副会長・幹事長・副幹事長 3年
1. 常任幹事及び監査役 3年 但し再選を妨げない。
1. 幹事 3年 但し再選を妨げない。

第7条 役員の任務は次のとおりとする。

1. 会長 会務を総括し本会を代表する。
1. 副会長 会長を補佐し会長事故あるときはその任務を代行する。
1. 幹事長 常任幹事の分掌する任務を総括し、幹事会・常任幹事会を主宰する。
1. 副幹事長 幹事長を補佐し幹事長事故あるときはその任務を代行する。
1. 常任幹事 総務・広報・会計・母校担当の任務を分掌し会の企画運営に当たる。
1. 幹事 会員間の連絡にあたり常任幹事を補佐する。
1. 監査役 会計業務を監査し会計の正常な運営を計る。

第8条 本会は次の機関をおく。

1. 総会 本会の最高議決機関で年1回定期総会を開く。但し常任幹事会が必要と認めたときは臨時総会を開くことができる。
1. 幹事会 総会に次ぐ議決機関で常任幹事会の諮問事項を協議し会の運営を協議、議決する。
1. 常任幹事会 本会の執行機関で会の事業計画、予算立案その他必要事項を協議し会の運営にあたる。

第3章 事業

第9条 本会は会の目的達成のため次の事業を行う。

1. 総会の開催
1. 会誌の発行
1. 母校発展のための事業
1. その他常任幹事会で必要と認めた事業

第4章 会計

第10条 本会の会員は正会員の会費及び寄附金をもってこれにあてる。

1. 会費は入会と同時に1,000円、年会費として1ヵ年500円を納入する。
1. 寄附金の運用は常任幹事会で協議する。

第11条 会計年度は7月1日より翌年6月30日までとする。

第12条 会計年度終了時に定期監査を受け、その結果を総会で全員に公示する。又正会員の要求があり監査役が必要と認めたときは臨時監査を受けなければならない。

第5章 附 則

第13条 会員は住所姓名等一身上の異動があったとき、これをすみやかに本会事務局又は幹事まで連絡しなければならない。

第14条 会則の変更は総会において出席者の3分の2以上の承認を得なければならない。

第15条 本会則は昭和35年8月21日より施行する。

一部改正（顧問制定・幹事・常任幹事・及び監査役の任期）昭和49年8月23日より施行する。

一部改正（年会費）昭和50年8月25日より施行する。

一部改正（副会長・副幹事長の定数）副会長5名・副幹事長7名 昭和51年8月25日より施行する。

一部改正（入会費の金額）1,000円 昭和52年7月17日より施行する。

一部改正（常任幹事の任務・会計年度）総務・公報・会計・母校担当、7月1日より翌年6月30日まで 昭和56年8月22日より施行。

| 役 職 | 氏 名 | 卒業期 | 住 所 | 電 話 | 勤 務 先 | 電 話 |
|-------|-------|-------|-----|-----|-------|-----|
| 顧 問 | 芦野 トシ | 職業9 | | | | |
| 相 談 役 | 石田 アイ | 高女2 | | | | |
| " | 五十嵐恒夫 | 東高1 | | | | |
| 会 長 | 松尾 静江 | 高女22 | | | | |
| 副 会 長 | 小野寺チズ | 高女16 | | | | |
| " | 伊坂 郁子 | 高女23 | | | | |
| " | 吉中新太郎 | 東高1 | | | | |
| " | 山中 一夫 | 東高3 | | | | |
| " | 吉原 宏 | 東高6 | | | | |
| 幹 事 長 | 岩城 弘侑 | 東高11 | | | | |
| 副幹事長 | 中村瞳三四 | 高女21 | | | | |
| " | 柴田 陽子 | 高女23 | | | | |
| " | 田中 麗子 | 東高2 | | | | |
| " | 大黒 正芳 | 東高8 | | | | |
| " | 高橋 正 | 東高10 | | | | |
| " | 小山 国夫 | 東高12 | | | | |
| " | 助貞 英一 | 東高13 | | | | |
| 監 査 役 | 秦 泰子 | 高女24 | | | | |
| " | 藤枝 靖規 | 東高14 | | | | |
| 常任幹事 | 長尾 貞子 | 高女4 | | | | |
| " | 菅原 三枝 | 高女15 | | | | |
| " | 佐野 セツ | 高女18 | | | | |
| " | 坂東 信子 | 高女22 | | | | |
| " | 亀谷美津子 | 高女25 | | | | |
| " | 小林 幸子 | 第一高校1 | | | | |
| " | 横田佐和子 | 第一高校2 | | | | |
| " | 佐藤 一郎 | 東高1 | | | | |
| " | 長谷川 修 | 東高2 | | | | |
| " | 高木 美子 | 東高3 | | | | |
| " | 高木 紗子 | 東高4 | | | | |
| " | 久末 祐輔 | 東高5 | | | | |
| " | 鈴木 敬夫 | 東高7 | | | | |
| " | 遠藤 安倫 | 東高8 | | | | |
| " | 陣内 幸則 | 東高9 | | | | |
| " | 後藤 広治 | 東高11 | | | | |
| " | 佐々木信義 | 東高12 | | | | |
| " | 林 豊 | 東高14 | | | | |
| " | 西谷 洋利 | 東高15 | | | | |
| " | 倉知 拓野 | 東高16 | | | | |

